

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4690100013
法人名	社会福祉法人 佳成会
事業所名	グループホーム てらやま
訪問調査日	平成20年3月15日
評価確定日	平成20年4月14日
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4690100013		
法人名	社会福祉法人 佳成会		
事業所名	グループホーム てらやま		
所在地 (電話番号)	鹿児島市吉野町6581-2		(電 話) 099-243-8811
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島		
所在地	鹿児島市真砂町34番1号南光ビル303号		
訪問調査日	平成20年3月15日		

【情報提供票より】(平成20年2月25日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成18年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 13 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	8.4 人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 250 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(2月11日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	8 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	名		
年齢	平均 83.8 歳	最低	68 歳	最高	95 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	小田原病院、下川皮膚科、さこだ歯科、さくら眼科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市北部の台地に位置し、眼下には錦江湾と桜島を見下ろす景勝の地に建てられたホームである。入居者は、野鳥のさえずりや緑の木立に囲まれた広い敷地の中で、大らかで自由な日々を過ごしている。職員は、法人代表と経験豊富な管理者のリーダーシップのもと、誇りを持って日々の業務に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題は、理念の啓発、金銭管理、物品管理、市町村及び地域との関わりなどであり、今後計画中の項目もあるが、概ね改善へ向けて取り組んでいる。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	ユニット毎に、管理者と計画作成担当者が自己評価をまとめ、ケース会議にて職員の意見の交流をしている。また、外部評価についても、結果を報告して改善に活かしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	本年1月に第1回目の会議を開催して、町内会長や民生委員から積極的な意見を述べていただいている。今後、2ヶ月に1回開催し、積極的に運営に役立たせる予定である。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	多くのご家族からは、訪問されたときにご意見や苦情などをお聞きしている。訪問されない場合は、電話にてお話しをしている。玄関にはテーブルと椅子が置かれ、そこに「気付き箱」を設置している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣は住宅が少なく、地域との連携には一層の工夫が求められる中で、町内会へ加入して、地域の夏祭りに参加するなど繋がりを強めるように努めている。近所の方から野菜をいただいたり、民生委員の方と一緒にゴミ捨て場の掃除をしたりしている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての理念は5つのS(エス)にまとめられ、日常の介護に活かすように努めている。地域密着型サービスとしての独自の内容は、今のところ盛り込まれていない。	○	法人としての理念に加えて、地域を意識した内容を盛り込んだホーム独自の内容について検討していただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝申し送りで唱和し、定例のケース会議(職員会議)にて繰り返し説明して理解を深めるようにしている。また、パンフレットにも掲載しており、見やすいところに掲示もしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣は住宅が少なく、地域との連携には一層の工夫が求められる中で、町内会へ加入して、地域の夏祭りに参加するなど繋がりを強めるように努めている。近所の方から野菜をいただいたり、民生委員の方と一緒にゴミ捨て場の掃除をしたりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニット毎に、管理者と計画作成担当者が自己評価をまとめ、ケース会議にて職員の意見の交流をしている。また、外部評価についても、結果を報告して改善に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年1月に第1回目の会議を開催して、町内会長や民生委員から積極的な意見を述べていただいている。今後、2ヶ月に1回開催し、積極的に運営に役立たせる予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	生活保護受給者が1Fに6人、2Fに2人入居されており、吉野支所を含む市の福祉課が頻繁に訪問している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3ヶ月に1回、近況報告書を送っている。請求書送付の際に、お便りや写真などもお届けしている。本年4月から「ホーム便り」の発行を予定している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	多くのご家族からは、訪問されたときにご意見や苦情などをお聞きしている。訪問されない場合は、電話にてお話しをしている。玄関にはテーブルと椅子が置かれ、そこに「気付き箱」を設置している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	1F、2Fの両ユニット間では定期的な異動がある。交流会(合同レクリエーション)などを行い、普段から馴染むように努めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時オリエンテーションや定期的なケース会議・職員会議又は外部の研修会などを通じて職員の育成に努めているが、段階に応じた計画的な研修体制は十分とは言いがたい。	○	職員の段階に応じた育成のために研修計画を立案して、更なる質の向上に取り組むことが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと、合同で餅つきを実施している。今後、より積極的な交流や研修会の活動を計画している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人及びご家族が納得の上で利用することを大切にしており、事前の相談や見学だけでなく、必要な場合は1日又は2日の体験入居をお願いして馴染めるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	可能な入居者には包丁を使っただき、皮むきから野菜の味付け、白玉作り、お茶入れそして下膳まで、教えられながら、共に行っている。また、菜園でのお花の手入れや野菜づくりも一緒に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意味の不明な言葉からも、その日の行動を通じて把握するように努めている。また、ご家族に対する意向(不満)などは、居室でお聞きするようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	事前の情報収集と職員の「気付きノート」による意見を基に、ケース会議にて意見交換の上で介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回のモニタリングと、6ヶ月毎の計画見直しを行っている。ご家族や本人の意向とともに、ケース会議や「気付きノート」によって状況を把握している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護師を配置して医療連携を図っている。必要な診療科の受診の場合は、ホームの車両にて送迎の支援を行っている。特に人工透析の必要な入居者の場合は、週3回送迎をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及びご家族の意向を尊重して、かかりつけ医の診療を受けるようにしている。緊急の場合などは、了解の上で協力医療機関にて受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「終末期に関する指針」を作成しており、入居者及びご家族の同意を得ているが、具体的な対応策については今のところ共有されていない。	○	直ちに直面する状況にはないが、指針に基づいた体制の整備と職員の研修が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	落ち着いた雰囲気の中で、入居者は職員のごく自然な声かけや介助を受けている。職員は、退職後も含めた守秘義務の遵守について誓約している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の過ごし方は一応決まっているが、個別の条件を考えて、入居者本人の希望を取り入れるようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの気持ちを大切にして、自由な雰囲気の中で食事をとっている。テーブルだけではなく、調理場に向き合ったカウンターでも食事できるようになっている。毎食の献立が、絵入りで楽しく表示されている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回を原則としているが、個別の状況に配慮して対応している。入浴を拒否される方については、時間を変えたり、担当者を代えるなど、様々な対策をとって、週2回は入っていただくように努めている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	忍耐力が弱くなっていることなどに配慮しながら、朝の掃除をしたり、趣味の歌や、編み物、碁、大正琴などを楽しくるように支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	広い庭を自由に散歩することができ、周辺の木々や野鳥の声が聞こえて自然の移り変わりを感じることができる。時折、買い物に出かけることもある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関には二つの自動ドアがあり、それぞれ施錠はしていないが内側からはタッチ式になっている。散歩などの外出の際は、職員が同行している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署立会いの避難訓練を入居者も参加して行っている。町内会にも、災害時の協力をお願いしている。同一法人の特養と合同で、救急蘇生訓練を計画している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	同一法人の特養の管理栄養士に献立作成を依頼しており、カロリー計算もされている。水分については、月1回チェックして把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い敷地で、明るく配慮の行き届いたホームである。台所のオープンな配置は、入居者との協働作業にとって使いやすいものとなっており、工夫の跡がうかがえる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具(机・椅子)や備品(テレビなど)が持ち込まれており、居心地よく過ごせるような雰囲気である。		